

入湯税に関するお客様アンケート結果について

# 入湯税に関するお客様アンケートの概要

## 1. アンケートの実施者とその目的

入湯税の納税義務者である宿泊者の入湯税引上げについての意見を求めるため、別府のみらい検討会議の旅館ホテル事業者である委員等の協力により、別府のみらい検討会議事務局が実施

## 2. 調査期間

平成30年1月23日(火)

～

平成30年1月30日(火)

## 3. 調査対象

実施協力施設に宿泊した来訪者

## 4. 調査方法

調査対象者が直接設問に回答

## 5. 回収状況

回収数: 290 (配付814、回収率35.6%)

(設問に未回答あり: 32)

有効回答数: 258

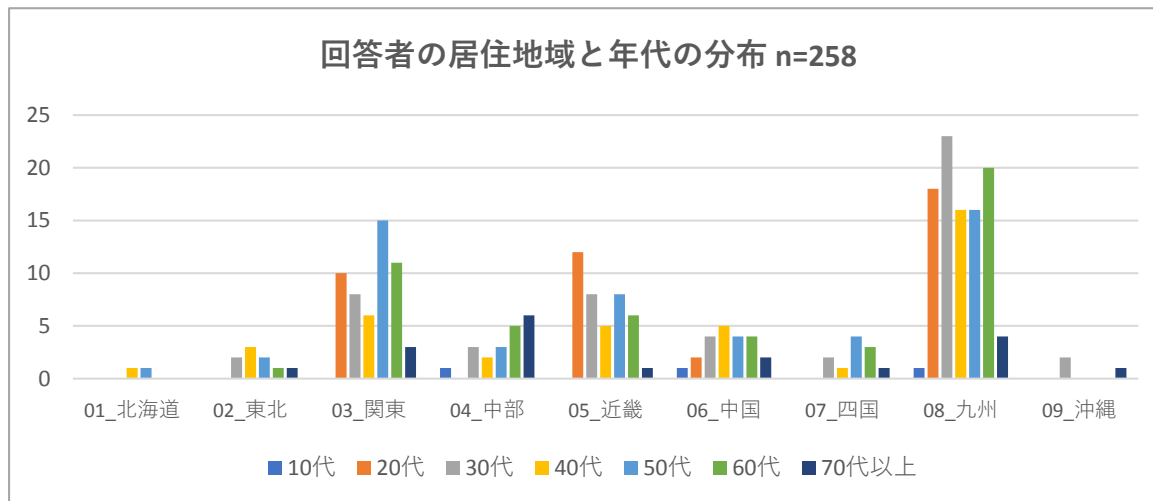
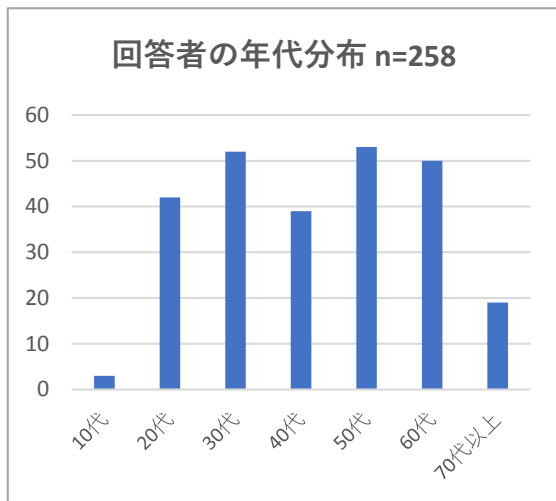
## 6. アンケート結果について (サマリー)

- 【回答者の年代】は、50代が約21%で最も多く、30代が約20%、60代が約19%、20代が約16%、40代が約15%、次いで70代以上、10代の順となっている。
- 【回答者の居住地】は、九州が約38%、関東が約21%、近畿が約16%となっており、次いで中国・中部・四国・東北・沖縄・北海道の順となっている。
- 【回答者の来別回数】は、3回目以上という回答が最も多く約47%となっており、2回目が約20%、初めてが約33%である。
- 【入湯税引き上げに関する設問】への回答については、使いみちが明確になっていれば協力したいが約65%、宿泊者や大人など対象を限定すべきが約12%、来訪者に負担をかけるべきでないが約22%、その他が約2%であった。
- 有効回答数のうち、明確な引き上げ反対の回答は約22%、また、約77%は入湯税の引き上げについて条件付きで賛成という結果となっている。
- 入湯税引き上げ反対の回答の特徴として、回答者の年代が高まるにつれその回答を選択する割合が高い傾向があった。
- 宿泊料金別に見ると、引き上げへの協力に関する回答については、宿泊料金が安いほど引き上げには肯定的であり、逆に宿泊料金が高くなると引き上げに協力できないという回答の割合が増えている。

## 7. 別添

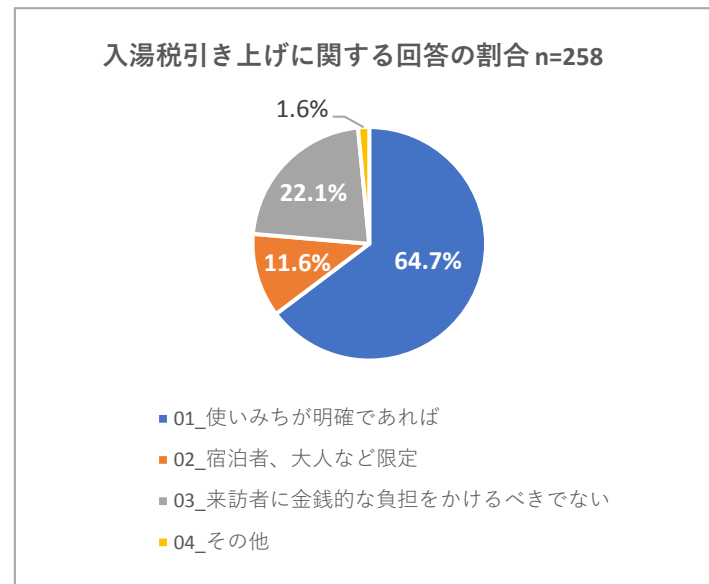
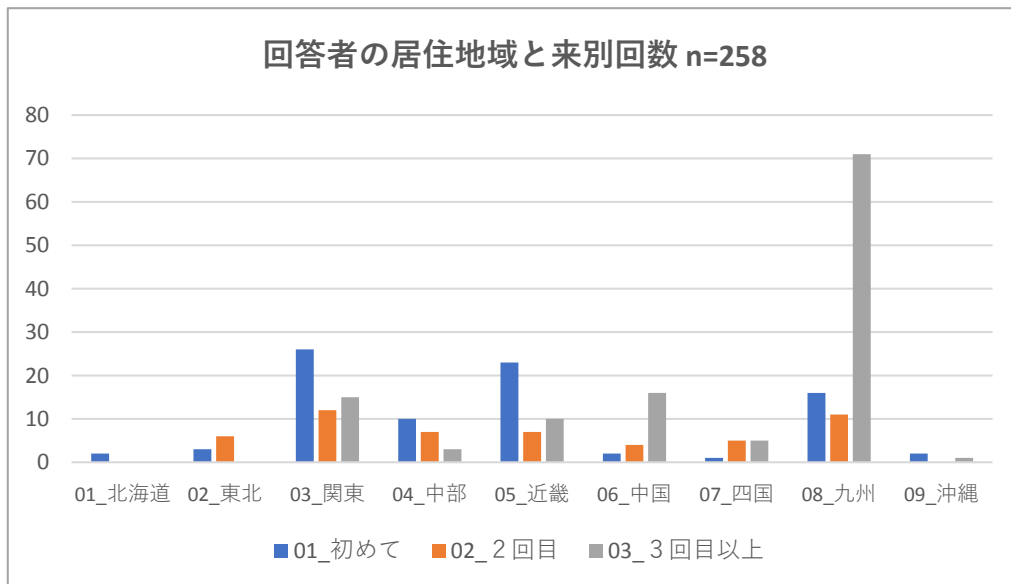
- アンケート集計・分析結果

# アンケート集計・分析結果①

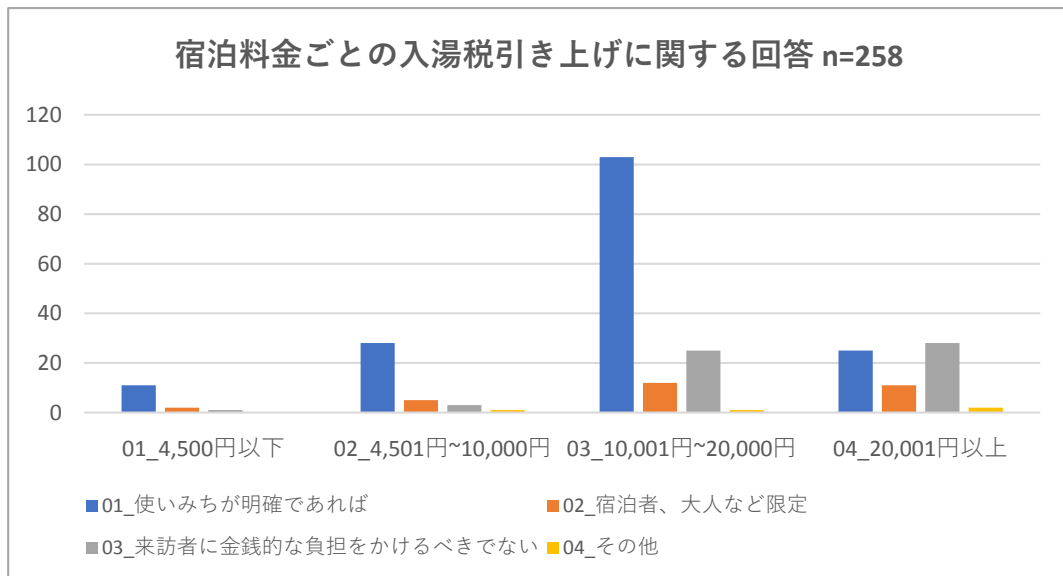
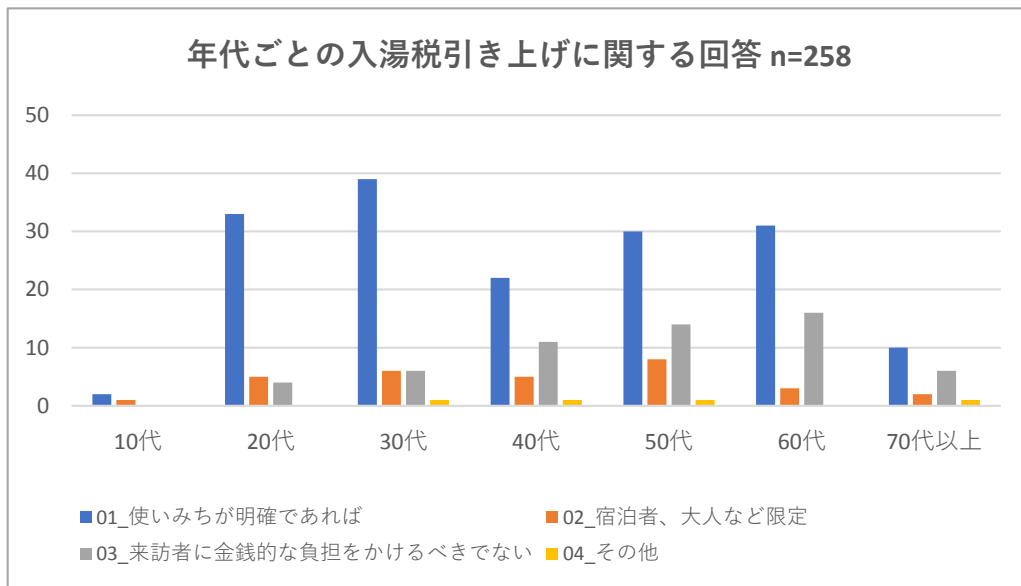
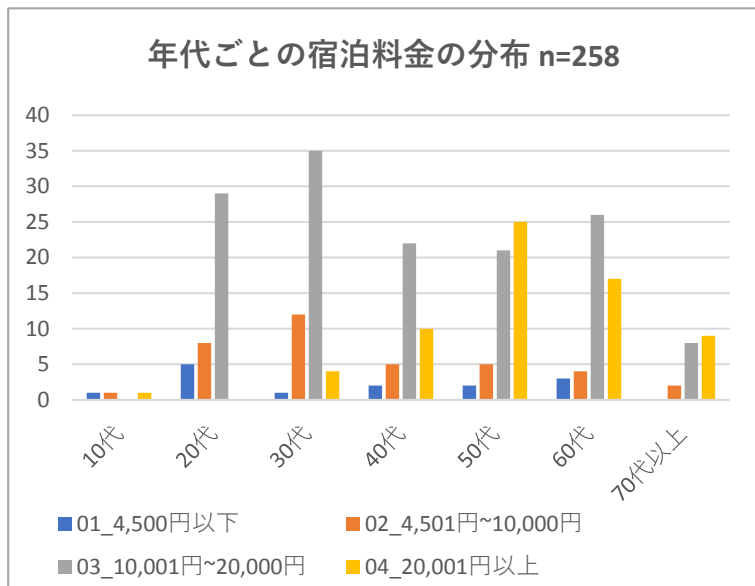


- 回答者の属性として、九州内のリピーターが最も多い。
- また、関東・近畿では初めて別府を訪れる来訪者の回答割合が多い。

- 引き上げ肯定の回答は引き上げ反対の回答を上回っており、用途の明確化と条件付きを合わせると75%以上である。



## アンケート集計・分析結果②



- 年齢の高まりと宿泊料金、年齢の高まりと入湯税引き上げ反対の回答、宿泊料金の高まりと入湯税引き上げ反対の回答については、それぞれで一定の相関がみられる。
- 素泊まり料金で宿泊したと思われる回答者では入湯税引き上げを許容する回答割合が多く、食事付きの宿泊をしたと思われる回答者については、引き上げに否定的な回答の割合が多くなっている。